

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4093300079		
法人名	社会福祉法人 北筑前福祉会		
事業所名	宗寿園 グループホーム愛々		
所在地 (電話番号)	福岡県宗像市稲元5丁目2番2号 (電 話) 0940-33-3008		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年 9月 28日	評価確定日	平成 21年 11月 15日

## 【情報提供票より】(平成 21年 9月 9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算	8.1人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1350	円

### (4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	赤間病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年11月開設の“宗寿園グループホーム愛々”は、1階がデイサービス、2階に認知症対応型のデイサービスに併設して建てられたホームである。同じ敷地内には、市が経営していた老人福祉センター“宗寿園”があり、運営を移譲する形で多くの近隣の方々に現在も利用して頂いている。宗寿園を利用して頂く近隣の方々とご利用者との交流が図られ、地域に密着した施設として近隣の方々にも認識して頂いている。「素敵なお顔を和気愛々」という理念の基、地域との交流を図りながら、ご利用者に楽しい時間を過ごして頂きたいという想いを込め、職員は日々ケアに取り組まれている。法人全体で、職員の育成に向けた研修に力を入れると共に、高齢者から子どもまで、元気な方から要介護者までが利用できるような、地域貢献に向けたケアスクールの開催や趣味のクラブ、映画鑑賞など様々な取り組みに力を入れておられる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回は初めての外部評価である。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は初めての自己評価、外部評価であり、外部評価を受けたことのある施設長より、自己評価、外部評価の意義の説明が行われた。項目について、職員間でディスカッションし、一人ひとりに記入して頂き、管理者が一つにまとめた。自己評価を行うことで、管理者は職員一人一人の考えを把握することができた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ご家族、民生委員、地区代表、市の担当者に参加して頂き、2ヶ月に1回開催されている。ホームの状況や実績報告と共に、新型インフルエンザへの対策やヒヤリハットの報告、外出時の事故保険などについて、ホームの運営に関する質問や助言を頂き、職員が気付かなかったことなど親身に教えて頂き、運営に反映されている。会議に積極的に参加して頂けるよう、開催前には管理者が案内のお手紙を郵送されている。また、会議参加者に夏祭りに参加して頂き、職員の取り組みの状況等を見て頂いている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	ご家族来訪時に、ご利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態など、ご家族が心配されている内容や知りたいと思われていることを中心に、個々に合わせた報告を職員が行っている。請求書と共に、ご利用者の暮らしぶりが分かるような写真を同封し、4ヶ月に1回は、広報誌も手渡しされている。家族会が開催され、ご家族から頂いたご意見を基に、朝の申し送り時やミーティング時に職員間で話し合いが行われ、改善に向けた取り組みが行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人福祉センターとして、運営移譲した現在でも、地域の高齢者の憩いの場として、現在も地域の方々に利用して頂いている。外部講師を招いての講演会や小学生を招いてのDVD上映、ボランティアの方々による踊りの発表会などを通して、地域の方々とご利用者との交流が図られている。デイサービスと合同の夏祭りには、地域のボランティアの方々を頂き、沢山の地域の皆様に来て頂くこともできた。中学生の職場体験の受け入れや体育祭への招待も頂き、開設から1年経たない施設とは思えないほど、多くの方々と交流促進が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者と一緒に生活する(共生)という法人の経営理念を基に、開設時の職員全員で案を出し合って考えられた理念である。「素敵で笑顔で和気愛々」を理念とし、①思い出作り ②美味しい食事 ③健康で楽しく、を目標として、地域との交流を図りながら楽しい時間を過ごして頂きたいという職員の想いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、ご利用者に対し笑顔で接し、毎月外食やイベントなどの行事を行い、楽しい時間を過ごして頂けるよう日々支援が行われている。ホームのリビングには理念が掲示され、職員会議において、理念や目標に沿ったケアが実践されているかなど、話し合いが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市が運営していた宗寿園(老人福祉センター)を、運営移譲する形で活用しているため、地域の高齢者の憩いの場として、現在も地域の方々にご利用して頂いている。小学生を招いてのDVD上映や、ボランティアの方々による踊りの発表会などを通して、ご利用者との交流が図られている。デイサービスと合同の夏祭りには、地域のボランティアの方々の協力を頂き、沢山の地域の方々に来て頂くこともできた。中学生の職場体験の受け入れや体育祭への招待も頂き、多くの方々との交流促進に努めている。	○	地域では夏祭りが行われていないため、デイサービスと合同で行った夏祭りが、地域のお祭りとして定着し、更に多くの方々に来て頂けるように、毎年恒例の行事にしていきたいと施設長は考えられている。子供から高齢者まで、元気な方から要介護者までご利用できる施設として、無料送迎バスも運行されている。ホームヘルパー講座の開催など、地域貢献につながる取り組みも実施されており、今後の更なる交流促進への取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長より「外部評価を積極的に活用するように」と説明があり、管理者が、「1年間取り組んできたことを見て頂き、次の年に活かしていきたい」と職員に説明した。項目について職員間でディスカッションし、一人ひとりに記入して頂き、管理者が一つにまとめた。自己評価を行うことで、管理者は職員一人一人の考えを把握することができたが、自己評価以降、職員間でのすり合わせをする時間は取られていない。	○	自己評価の結果、見えてきた課題について、職員間で話し合いを行うことで、新たな目標の設定やケアの見直しにつながるものと思われる。今後の取り組みに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、民生委員、地区代表、市の担当者に参加して頂き、2ヶ月に1回開催されている。ホームの状況や実績報告、課題についての意見交換が行われ、参加者から頂いた意見を基にサービスの向上や改善に活かしている。地区代表の方など制度に詳しく、ホームの運営について具体的な助言を頂いている。会議に積極的に参加して頂けるよう、開催前には管理者が案内のお手紙を郵送されている。参加者に夏祭りに参加して頂き、お祭りへの取り組みの状況を見て頂いている。	○	開設以降、4回の運営推進会議が行われたが、ホームの取り組みの状況報告が主な会議の焦点となっているため、地域交流に向けた助言など職員が知らない情報をもっと教えて頂きたいと考えられている。1回目の会議には、ご利用者も参加して頂いたが、2回目以降、気を遣われて会議に参加されていない。ご利用者が気を使わず気軽に参加できるように、茶話会形式の話し合いの場を設けるなど検討されてみてはいかがであろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が運営していた施設の運営を移譲するにあたり、市の担当者とは頻りに話し合いが行われてきた。市の老人連合会と一緒に介護予防教室を開催したり、市主催の地域密着型サービス事業所連絡会にも職員は参加している。ホームの人員配置のことなど、わからないことはいつでも相談できる関係にあり、市の依頼で民生委員の方々の見学の受け入れなども行っている。	○	認知症サポーター養成研修を行っていきたくと施設長は考えられている。市との連携を図りながら、地域のネットワーク作りに向けた検討を行っていく予定がある。地域の高齢者が安心して暮らせる街作りに向けた、今後の取り組みに期待していききたい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者等が外部の研修会に参加し、成年後見制度について学ぶ機会があり、説明用のパンフレットも施設内に備え付けられている。遠方にお住まいのご家族に、職員が制度の説明を行ったが現在のところ利用されている方はおられない。一部のご家族以外、制度に関する説明等はまだ行われていない。	○	運営推進会議や家族会等の時間を活用し、ご利用者、ご家族に制度の紹介を行うことで、必要な時に制度を活用して頂けると思われる。また、いつでも説明できるように、職員の制度への理解を深めるためにも、内部研修等の計画等、検討されてみてはいかがであろうか。更なる取り組みに期待していききたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回は、窓口での利用料の支払いのために、ご家族がホームに来訪されている。日頃の暮らしぶりや健康状態など、ご家族が心配されている内容や知りたいと思われていることを中心に、個々に合わせた報告を職員が行っている。請求書と共に、ご利用者の暮らしぶりが分かるような写真を同封し、4ヶ月に1回は、広報誌も手渡しされている。金銭管理については、個人別預かり金出納帳を見て頂き職員が説明し、確認のサインを頂いている。	○	施設長より、「ご家族宛てにお手紙を書き、請求書に添えて同封してはどうか」との助言を管理者は頂いているということで、お手紙作成が予定されている。更なる取り組みに期待していききたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と共に、ご家族来訪時には苦情や要望などないかなど、職員が声掛けを行っている。ご家族からのご意見を頂ける機会となるよう、今年の5月に第1回目の家族会が開催され、2回目の開催が11月に予定されている。「職員の名前がわかるようにしてほしい」「毎日入浴させてほしい」などのご意見を頂き、朝の申し送り時やミーティング時に話し合いが行われ、名札の着用や毎日の入浴への支援が行われるなど、運営に反映させる取り組みが行われている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は、馴染みの関係の大切さを理解した上で、職員全員でご利用者を把握し、情報共有できるように考えられている。ご利用者に影響のない範囲で、担当者の交代やデイサービス等との職員の勤務交代を予定されている。職員の離職防止のため、休みの希望に極力応じたり、仕事へのやりがいを持てるように、ご家族から伺った職員へのお礼の言葉や感謝の言葉を職員に伝え、モチベーションを上げるような配慮も行われている。職員の退職については、ご利用者に合わせた報告が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、採用対象から外すということはない。採用にあたっては、気配りのできる方や思いやりのある方、ご利用者に対してやさしい気持ちで接して頂ける方を採用している。車の運転や掲示物などの作品作りなど、職員の特技や趣味の能力が十分發揮できるような支援もされている。職員の資格取得に向け勤務調整をしたり、受験対策として実技指導などの内部研修も行われている。実技指導以外にも、介護福祉士の受験講座も行う予定となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部講師をお招きして、人権学習の講義をして頂いた。ご利用者への声かけの仕方が子供に対して話すようなイントネーションが感じられる時があり、管理者が個別指導を行い、ミーティングでも人権に関する話し合いが行われてきた。ご利用者に対して、笑顔で接し人権を尊重して敬いの気持ちで介護を行うよう、職員は意識して日々取り組まれている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の取り組みとして、新人職員に対してはマンツーマンでの指導が実施されている。法人内他事業所と合同での内部研修や資格取得に向けた実技指導なども行われている。また、法人内での管理者研修以外に、職員全員に実践者研修を受講して頂く予定となっている。施設長は、個々の職員の立場や経験年数、習熟度に応じてスキルアップできるよう、資格取得と共に、計画的に研修を受けられる機会を設けられている。現場では、施設長や管理者等が指導にあたっている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回、市主催の“地域密着型サービス事業所連絡会”に参加し、研修会の合同開催や事例検討などが行われている。事業所間の相互訪問も実施され、新規開設の事業所の職員研修の受け入れも行われている。他事業所の職員と電話やファックス等での情報交換も行われており、同業者との交流が積極的に行われている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居前に、職員がご自宅等を訪問したり、ご本人にもホームの見学に来て頂き、職員とも顔馴染みになれるようにしている。他のご利用者とのコミュニケーションを図る目的で、椅子を輪にして座り、みんなで会話を楽しむ等の配慮も行われた。入居への拒否があられる方には、ご自宅を訪問し、しばらく世間話をしたあと、一緒にホームにお見えになったり、ご本人の気持ちを尊重して入居日を延期した方もおられた。入居後も、畑が気になって「帰りたい」といわれる方には、自宅の畑を見にお連れするなど、安心して生活できるような支援も行われている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者から、園芸・手芸・床づけのおいしい作り方等を教えて頂いている。ご利用者との日々の関わりの中で、本心を語って下さったり、感情を素直に表して頂けることに職員は喜びを感じている。職員がご利用者から励ましの言葉を頂くことも多く、職員の服の後ろ側をさりげなく手直して下さる等の気遣いもみられる。食後の片づけなども、お盆に食器を集める係りはご利用者で、寄せた食器など重いものを運ぶのは職員というように、お互いに協力し合う関係が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメント用紙を利用して、ご家族に記入して頂いている。ご利用者、ご家族等から、ホームでどのように暮らしていきたいかなど話を伺っている。意思疎通が困難な方にも、これまでの生活歴や生活習慣、趣味等をご家族から伺い、ご利用者の行動や表情から思いを汲み取るよう努力している。外出すると喜ばれている様子が見受けられたことから、定期的に外出の支援が行われている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者の意向はもちろんの事、計画の原案ができた時点でご家族にも見て頂き、意見を頂いたり、職員やかかりつけ医の意見も踏まえ、個別の課題や目標が記載されている。申し送りノートにも、個別の介護手順が一部記載されている。『課題・目標』が職員の視点から見た課題であったり、「汚れている」「散乱している」などの表現で記載されている計画も一部に見受けられる。	○	「ご利用者自身の計画」という視点に立ち、表現の面でもご利用者、ご家族の立場に立った配慮をされてみてはいかがであろうか。できないことや問題となっていることを課題・目標に記載されているが、ご利用者の持っている力が発揮できるように、ご本人ができることの記入があると、更に良いと思われる。短期目標についても、達成できそうな目標をご利用者、ご家族と再度検討されてみてはいかがであろうか。その人らしく暮らし続けるための、ご利用者主体の計画が作成されることを期待していきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回モニタリングが行われ、月1回の職員会議の時に、全ご利用者の状態に変化はないか、計画作成担当者が職員から意見を伺っている。計画の見直しのための会議以外でも、ご利用者、ご家族と話し合いを持った際に新たな気づきや意見が出された場合は、それらを計画に反映させるために臨機応変に計画の見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者、ご家族に安心して暮らし続けて頂くために、ご家族が対応できない時の通院介助や自宅訪問への送迎介助が行われている。ご利用者のご希望に応じて、施設1階にあるデイサービスの電気治療も受けて頂いている。個別の外出支援や外泊支援、体調変化時の看護師との連携や入院時の早期退院へ向けた医療機関との連携など、一人ひとりに合った柔軟な対応が行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医で受療して頂いており、1名の方は月2回の訪問診療を利用されている。ご利用者のかかりつけ医とは相談しやすい関係にあり、併設のデイサービスの看護師には、夜間も相談可能な24時間オンコール体制が取られている。原則、通院介助はご家族にお願いしているが、ご家族が対応できない場合は職員が介助し、結果をご家族に報告している。ご家族から通院結果の報告も頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人、ご家族より看取りの希望があった場合は、「主治医に意見を求め、対応が可能と判断された場合に、ご本人及びご家族との話し合いや意思確認を行い同意を取ります」という内容の看取りの指針を重要事項説明書に添付し、ご家族にお渡しされている。ご利用者、ご家族に看取りに関する意向は伺っていないため、今後アンケートを取り、意向の確認を行う予定となっている。	○	ご利用者のご家族の意向を確認され、重度化した場合や終末期にどう対応するかについて、職員間で話し合いを行い、ケアの方針の統一を図られることで、安心した生活につながることを期待していきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、排泄の誘導や食べこぼしの処理など、ご利用者一人一人のプライバシーに配慮して声かけを行っている。職員は、個人情報保護に関する内部研修を受講しており、個人情報に触れる話を第三者にしないことや、個人情報を書かれたメモは細かく破って捨てるなど、個人情報の漏えいにも注意が払われている。ご家族来訪時に、他のご利用者に関係する場所で報告をしてしまったり、個人情報が書かれた記録物が来訪者の目につく場所に置いてあることがある。	○	ご利用者のバイタルが記入された記録物の保管場所の検討やご家族への報告を行う時の場所の配慮など、職員間で検討されることを期待したい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者1人ひとりの生活ペースに配慮し、日課にとらわれない生活を支援している。食事も急かさずゆっくりと食べて頂き、外出希望に合わせて入浴時間をご前中に変更するなどの配慮も行われている。どのように過ごしたいか希望を表して頂けない方には、これまでの暮らしぶりを基に、お好きなお散歩の支援を行うなどの配慮も行われている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が献立を作成し、月曜日から土曜日の昼食はデイサービスの厨房にて調理が行われている。盛り付けと配膳をご利用者に手伝って頂いている。朝食と夕食は、献立に基づき、ご利用者と共に調理の下ごしらえから味付け迄ホームの台所で調理が行われている。日曜日のお昼は、ご利用者の希望を伺い皆さんが食べたいと言われる献立にしている。また、外食や出前を取るなどの支援も行われており、ご利用者が食べる事の喜びや楽しみを味わって頂きたいと職員は常に思っている。	○	ご利用者と一緒に関立を考え調理する機会が、日曜日の昼食だけに限られているため、もう少し回数を増やしていきたいと管理者は考えられている。女性のご利用者が多く、調理することを楽しみとされていることから、事前に計画を立てることで実現可能な状況もあり、ご利用者の力を発揮して頂くためにも、今後の取り組みに期待していきたい。
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室の窓からの景色は緑の木々に囲まれ目に優しく、浴室も広々として、ご利用者はゆったりとした気分で入浴を楽しまれている。バラの季節になると職員が自宅よりバラの花を持参されて、バラ湯に入って頂き、ご利用者に大変喜ばれている。入浴日は一週間に3回午後よりと、ある程度決めてはいるが、お風呂好きなお利用者もおられ、毎日利用して頂くと共に、浴槽には溢れ出る程のお湯を張って入浴を楽しんで頂いている。入浴嫌いなご利用者には声掛けなどの工夫をしながら入浴をして頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者同士、自然に、テーブルを拭く、食器を並べる、配膳、引き膳、調理の下ごしらえから味付け、盛り付け、洗濯物をたたんだり、ご利用者のできる範囲で役割を決められて積極的に活動されている。また、希望されるご利用者には、一階のデイサービスにて電気治療を受けて頂いたり、一週間に一回、理学療法士の指導の下、交流ホールにてリハビリ体操をされ、デイサービスに来られた地域の方々との交流を深めて楽しまれている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や季節に応じて、バスツアーにご家族も一緒に出かけたり、正助村にバイキングを食べに出かけている。ご利用者同士で「外に行きたいね」「なんか食べたいね」と話をされているのを職員が聞き、入浴等の時間を繰り上げて、午後から外出するなどの臨機応変な対応も行われている。また、近くの市民運動公園に散歩に行ったり、買出しにはご利用者と共に、道の駅、ほたるの里、スーパーマーケットに車で行く等、散歩や外出の支援はほぼ毎日行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜20時から朝7時までには防犯上施錠しているが、日中は施錠していない。ご利用者にとって鍵をかけない生活が良いことを職員全員が理解されている。“家に帰る”と言われたご利用者が、毎日数回ホームより出て行かれるが、職員がそつと後ろについて行くなどして、行動を制限するようなケアは行わないよう配慮が行われた。今は落ち着かれ、他のご利用者と共に散歩や外出を楽しまれている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内にはスプリンクラーが設置されている。今年3月、ご利用者と一緒に火災の際の避難訓練が行われ、次回は10月に消防署の方の協力を頂き運営推進会議開催と併せ、消火設備の使い方等の訓練を受ける予定となっている。地域の方(近隣の方)への災害時の協力依頼や、災害に備えた備品等の準備はまだ行われていない。	○	災害発生時、避難後のご利用者の安全確保のための見守りなど、地域の方々への協力依頼を検討されてみてはいかがであろうか。また、隣市にある母体の特養では、災害時に備えた備品が常備されているが、ホームへの搬送手順など、システム化まではされていないとのこと。災害に備えた備品等の準備なども併せて、職員間で検討されてみてはいかがであろうか。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、みんなで情報を共有している。栄養のバランスについては管理栄養士の献立によりカロリー計算されており、現在治療食のご利用者はいない。活動量の低下しているご利用者など、ご飯の量を調整され、水分摂取が十分に摂れないご利用者にはお茶ゼリーを作ったり、個別にヤクルトなどにて飲水を摂って頂いている。おやつの中にはコーヒー、紅茶、ジュース、日本茶と好きな飲み物を選んで頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二階建ての二階部分に共用空間があり、格子戸の玄関引戸の中へ入ると、広く大きな窓があり、日中は照明がいらないくらい明るく、リビングは広々とゆったりしている。一人用の椅子やソファの配置も良く、常に職員とコミュニケーションが図れるような気遣いがされている。時にはやさしいBGMを流し雰囲気作りへの配慮がされていて、空調の調節をこまめにする事で不快な臭気も感じられない。飾り棚にはたくさんのお花が飾られており、ご利用者が心地よく過ごして頂けるような工夫がされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が居心地良く暮らせる居室の雰囲気作りを目指し、入居の際にご家族と相談している。ご利用者が長年大事にされていた物や、蔵書の好きなご利用者にはご家族の協力を得て本を持参して頂いたり、ご利用者が使い慣れたチェストや鏡台、冷蔵庫など持参して頂くなど、ご利用者が安心して過ごせる環境作りに配慮されている。		